

木曾谷森林計画区

第五次国有林野施業実施計画書

計画期間 自 平成29年 4月 1日
至 平成34年 3月31日

林野庁 中部森林管理局

この国有林野施業実施計画（以下「本計画」という。）は、国有林野管理経営規程に基づき、国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画に即し、森林管理局長が森林計画区域内の管理経営する国有林野の箇所別の伐採、更新等について5年ごとにたてる5年間の計画である。

この本計画の計画期間は、平成29年4月1日から平成34年3月31日までの5年間である。

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
(1)	伐採造林計画簿	1
(2)	水源涵養 ^{かん} タイプにおける施業群別面積等 付表一森林管理署別施業群別面積等	1
(3)	水源涵養 ^{かん} タイプの施業群別の上限伐採面積	3
(4)	伐採総量 付表一 1 森林管理署別伐採総量（木曽） 付表一 2 森林管理署別伐採総量（南木曽）	4
(5)	更新総量 付表一森林管理署別更新総量	8
(6)	保育総量 付表一森林管理署別保育総量	9
3	林道の整備に関する事項	10
4	治山に関する事項	15
5	保護林の名称及び区域	17
6	レクリエーションの森の名称及び区域	22
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域等	30
8	その他必要な事項	
(1)	施業指標林・試験地等	31
(2)	フィールドの提供	33
(3)	森林共同施業団地	34

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量
並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養^{かん}タイプにおける施業群別面積等

(単位：h a、年)

施業型	施業群	面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
単層型 (短期)	小面積 分散伐区	4,091.22	育成単層 林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時にモザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林。	スギ 60 ヒノキ 75 カラマツ 60
	長伐期	16,145.64	育成単層 林施業	主伐を標準伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返して、下層植生の発達した森林。	スギ 120 ヒノキ 200 カラマツ 100
複層型	人工林 複層伐 (常時複層)	2,898.98	育成複層 林施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為による複層林化を図った複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林。	スギ 120 [60] ヒノキ 200 [75] カラマツ 100 [60]
	(一時単層)				スギ 85 [60] ヒノキ 100 [75] カラマツ 85 [60]
漸伐 複層型	木曾五木 漸伐 複層型	3,531.62	育成複層 林施業	天然林において、漸伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力による複層林化を図った複数の樹種及び樹冠層を構成(階層構造)する森林。	N 250 L 180
	木曾ヒノキ 等漸伐 複層型	273.41			N 250
	天然林 漸伐 複層型	2,409.20			N 200 L 180

(単位：ha、年)

施業型	施業群	面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
択伐 複層型	人工林択伐 複層型	1,765.50	育成複層 林施業 及び天然生 林施業	人工林又は天然林において、 択伐により部分的に伐採し、人 為あるいは天然力により複層林 化を図った複数の樹種及び樹冠 層を構成（階層構造）する森 林。	N 95 (35)
	木曾五木 択伐 複層型	1,985.81			N (35)
	木曾ヒノキ 文化財等択伐 複層型	1,238.77			N (35)
	天然林択伐 複層型	871.87			N 200 (35) L 180 (25)
試験地	実験林 (三浦)	418.76	育成複層 林施業及 び天然生 林施業	技術開発委員会の計画によ る。	
	実験林 (助六)	89.18			
その他		35.99	遺伝子保存林、検定林、施業指標林、 試験地、精英樹保護林等の目的による。		
合計		35,755.95			

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 () は回帰年、[] は初回伐採の伐期齢である。

3 人工林複層伐の常時複層状態となるタイプの二段書きは、後伐の伐期齢を二通り設けたもの。

(付表：森林管理署別水源涵養^{かん}タイプにおける施業群別面積等)

(単位：ha)

施業型	施業群	計画区面積	木曽森林管理署	南木曽支署
単層型 (短期) (長期)	小面積分散伐区	4,091.22	1,144.85	2,946.37
	長伐期	16,145.64	13,996.54	2,149.10
複層型	人工林複層伐	2,898.98	1,730.12	1,168.86
	木曽五木漸伐複層型	3,531.62	2,787.14	744.48
	木曽ヒノキ等漸伐複層型	273.41	273.41	
	天然林漸伐複層型	2,409.20	2,317.39	91.81
択伐複層型	人工林択伐複層型	1,765.50	1,509.74	255.76
	木曽五木択伐複層型	1,985.81	1,620.92	364.89
	木曽ヒノキ文化財等 択伐複層型	1,238.77	1,238.77	
	天然林択伐複層型	871.87	845.12	26.75
実験林(三浦、助六)		507.94	507.94	
その他		35.99	30.75	5.24
合計		35,755.95	28,002.69	7,753.26

(注) 林地以外の土地の面積は含まない。

(3) 水源涵養^{かん}タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積
小面積分散伐区	272.75
長伐期施業群	403.65
複層型施業群	207.05
漸伐複層型施業群	155.35
択伐複層型施業群	837.40

(注) 上限伐採面積は、計画期間(5年)分の面積

(4) 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分		林			地		林地 以外	合計
		主 伐	間 伐	小 計	臨時 伐採量	計		
山地 災害 防止 タイプ	土砂流出崩壊防備	1,687	(1,163.57) 141,554	143,241				
	気 象 害 防 備							
	計	1,687	(1,163.57) 141,554	143,241				
自然維持タイプ		187	(991.71) 107,641	107,828				
森林空間利用タイプ			(256.28) 24,063	24,063				
快適環境形成タイプ								
水 源 かん 漕 養 タ イ プ	小面積分散伐区	63,004	99,910	162,914				
	長 伐 期		268,926	268,926				
	人工林複層伐	40,827	69,892	110,719				
	人工林択伐複層型		7,219	7,219				
	天然林択伐複層型		39	39				
	木曾五木漸伐複層型	20,131		20,131				
	木曾五木択伐複層型	444		444				
	木曾ヒノキ漸伐複層型	1,249		1,249				
	木 曾 ヒ ノ キ 文化財等択伐複層型	6,740	2,138	8,878				
	実 験 林	1,036		1,036				
計	133,431	(3,973.28) 448,124	581,555					
合 計		135,305	(6,384.84) 721,382	856,687	99,813	956,500		956,500
年 平 均		27,061	(1,276.97) 144,276	171,337	19,963	191,300		191,300

(注) 1 () 書は間伐面積である。

(再掲)市町村別内訳

(単位：m³)

市町村名	林 地					林 地 以 外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
上 松 町	43,990	75,191	119,181				
木 祖 村	4,877	84,614	89,491				
王 滝 村	26,139	151,887	178,026				
木 曾 町	13,680	80,664	94,344				
南 木 曾 町	31,767	199,348	231,115				
大 桑 村	14,852	129,678	144,530				

(注)市町村別内訳には、臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(付表 1 : 森林管理署別伐採総量 (木曾森林管理署))

(単位 : m³、ha)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
山 地 災 害 防 止 タ イ プ	土砂流出崩壊防備		(453.01) 49,895	49,895				
	気象害防備							
	計		(453.01) 49,895	49,895				
自 然 維 持 タ イ プ		187	(601.57) 57,539	57,726				
森 林 空 間 利 用 タ イ プ			(246.24) 22,794	22,794				
快 適 環 境 形 成 タ イ プ								
水 源 か ん 涵 養 タ イ プ	小面積分散型	21,239	14,558	35,797				
	長 伐 期		206,560	206,560				
	人工林複層伐	40,827	33,732	74,559				
	人工林択伐複層型		5,101	5,101				
	天然林択伐複層型		39	39				
	木曾五木漸伐複層型	17,408		17,408				
	木曾五木択伐複層型							
	木曾ヒノキ漸伐複層型	1,249						
	木曾ヒノキ等 文化財択伐複層型	6,740	2,138	8,878				
	実 験 林	1,036		1,036				
計	88,499	(2,640.84) 262,128	350,627					
合 計		88,686	(3,941.66) 392,356	481,042	58,958	540,000	540,000	
年 平 均		17,737	(788.33) 78,471	96,208	11,792	108,000	108,000	

(注) 1 () 書は間伐面積である。

(付表2：森林管理署別伐採総量（南木曾支署））

(単位：m³、ha)

区 分		林			地		林地以外	合計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
山 地 災 害 防 止 タ イ プ	土砂流出崩壊防備	1,687	(710.56) 91,659	93,346				
	気象害防備							
	計	1,687	(710.56) 91,659	93,346				
自然維持タイプ			(390.14) 50,102	50,102				
森林空間利用タイプ			(10.04) 1,269	1,269				
快適環境形成タイプ								
水 源 <small>かん 漕</small> 養 た い ぷ	小面積分散型	41,765	82,565	124,330				
	長 伐 期		57,852	57,852				
	人工林複層伐		36,160	36,160				
	人工林択伐複層型		2,118	2,118				
	天然林択伐複層型							
	木曾五木漸伐複層型	3,167	7,301	10,468				
	木曾五木択伐複層型							
	木曾ヒノキ漸伐複層型							
	木曾ヒノキ等 文化財択伐複層型							
	実 験 林							
計	44,932	(1,332.44) 185,996	230,928					
合 計		46,619	(2,443.18) 329,026	375,645	40,855	416,500		416,500
年 平 均		9,324	(488.64) 65,805	75,129	8,171	83,300		83,300

(注) 1 () 書は間伐面積である。

(5) 更新総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源 ^{かん} 涵養 タイプ	合 計
人工 造林	単層林造成					101.70	101.70
	複層林造成	1.50				43.32	44.82
	計	1.50				145.02	146.52
天然 更新	天然下種第1類		57.86			1.21	59.07
	天然下種第2類						
	計		57.86			1.21	59.07
合 計		1.50	57.86			146.23	205.59

(付表：森林管理署別更新総量)

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源 ^{かん} 涵養 タイプ	合 計
木	人工 造林	単層林造成				44.46	44.46
		複層林造成				43.32	43.32
		計				87.78	87.78
曾	天然 更新	天然下種第1類				1.21	1.21
		天然下種第2類					
		計				1.21	1.21
合 計						88.99	88.99
南 木	人工 造林	単層林造成				57.24	57.24
		複層林造成	1.50				1.50
		計	1.50			57.24	58.74
曾	天然 更新	天然下種第1類		57.86			57.86
		天然下種第2類					
		計		57.86			57.86
合 計		1.50	57.86			57.24	116.60

(6) 保育総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ°	自然維持 タイプ°	森林空間 利用タイプ°	快適環境 形成タイプ°	水源涵養 タイプ°	合 計
保 育	下 刈	4.55				539.73	544.28
	つる切	24.29		0.50		97.42	122.21
	除 伐	176.74		2.63		1,145.59	1,324.96

(付表：森林管理署別保育総量)

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ°	自然維持 タイプ°	森林空間 利用タイプ°	快適環境 形成タイプ°	水源涵養 タイプ°	合 計
保 育	木 曽	下 刈	4.55			242.68	247.23
		つる切	4.55			51.75	56.30
		除 伐	94.68		0.89	818.95	914.52
育	南 木 曽	下 刈				297.05	297.05
		つる切	19.74		0.50	45.67	65.91
		除 伐	82.06		1.74	326.64	410.44

3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
基幹	開設	味噌川枯尾	木曾 1116ほか 1箇所	2,500	
		計	1箇所	2,500	
基幹	改良	末川西野(末川)	木曾 586ほか 3箇所	50	
		末川西野(西野)	518ほか 2箇所	20	
		畑福皆沢(畑福)	556ほか 2箇所	40	
		畑福皆沢(皆沢)	557ほか 2箇所	40	
		西野川	828ほか 5箇所	650	
		小川殿	53ほか 2箇所	40	
		灰沢下柿沢	29ほか 1箇所	20	
		分渡沢白川	217ほか 2箇所	40	
		殿灰沢(灰沢)	31ほか 2箇所	40	
		尾頭沢池の沢連絡	1143ほか 2箇所	40	
		塩沢藪原(藪原)	1178ほか 1箇所	20	
		藪原	1191ほか 3箇所	100	
		笹川	1044ほか 3箇所	140	
		塩沢藪原(塩沢)	1214ほか 2箇所	40	
		滝越三浦(王滝)	2720ほか 1箇所	20	
		白川付知	2555ほか 2箇所	40	
		瀬戸川高樽(上)	2093ほか 1箇所	20	
		瀬戸川高樽	2014ほか 3箇所	50	
		氷ヶ瀬小俣	2293ほか 9箇所	110	
		王滝三浦	2823ほか 2箇所	40	
		瀬戸川高樽(ウグイ川)	2247ほか 1箇所	20	
		瀬戸川高樽(下)	2014ほか 3箇所	50	
		御岳御厩野	2607ほか 3箇所	60	
		鈴ヶ沢	2405ほか 2箇所	60	
		柿其樽ヶ沢(柿其)	南木曾 23ほか 2箇所	50	
		浦川上山(与川)	321ほか 3箇所	100	
		南木曾	353ほか 2箇所	50	
		南蘭(大迷沢)	675ほか 2箇所	200	
夕森田立(田立)	2135ほか 2箇所	50			

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
基幹	改良	殿灰沢	南木曾 1024ほか 2箇所	50	
		阿寺タツガヒゲ(阿寺)	1173ほか 3箇所	100	
		小川殿(川戸沢)	1101ほか 4箇所	200	
		伊奈川	1433ほか 2箇所	50	
		岩倉	57ほか 2箇所	50	
		計	83箇所	2,650	
その他	開設	クロブチ	木曾 2127ほか 1箇所	2,500	
		芦島支線	309ほか 1箇所	1,900	
		土浦	2737ほか 1箇所	1,000	
		黒石支線	672ほか 1箇所	900	
		下小谷	2786ほか 1箇所	1,400	
		中の沢	2936ほか 1箇所	2,000	
		奥峰沢	1218ほか 1箇所	1,500	
		奈良の平	1017ほか 1箇所	2,000	
		ペロ沢	169ほか 1箇所	1,000	
		中ノ沢	南木曾 601ほか 1箇所	2,000	
		鍋割沢支線	617ほか 1箇所	2,000	
		西山	5ほか 1箇所	1,500	
		忠兵衛沢	9ほか 1箇所	1,500	
		二ノ沢	1019ほか 1箇所	1,000	
		一ノ沢	1011ほか 1箇所	1,500	
		向ヶ原	622ほか 1箇所	2,000	
	計	16箇所	25,700		
	改良	髭沢	木曾 524ほか 4箇所	60	
		髭沢支線	524 1箇所	20	
		畑福支線	566ほか 1箇所	55	
		道官	739ほか 2箇所	40	
		カベ沢	760ほか 2箇所	40	
		小幸沢	760ほか 2箇所	20	
		小樽	750ほか 2箇所	40	
		小樽支線	752ほか 1箇所	20	
		中沢	707ほか 2箇所	40	
		黒石(黒石)	665ほか 5箇所	100	

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
その他	改良	赤沢(小川入)	木曾 146ほか 2箇所	40	
		下柿沢	142ほか 2箇所	40	
		下柿沢支線	149ほか 1箇所	20	
		白川(小川入)	198ほか 1箇所	20	
		麿香沢	57ほか 2箇所	40	
		ウルイ沢	66ほか 1箇所	20	
		分渡沢連絡	198ほか 1箇所	20	
		ペロ沢	179ほか 1箇所	20	
		山の神	169ほか 1箇所	20	
		赤ゾレ	224ほか 2箇所	40	
		中の沢	217ほか 2箇所	40	
		芦島	316ほか 2箇所	40	
		池の沢	1163ほか 1箇所	20	
		尾頭沢	1154ほか 5箇所	75	
		笹尾沢	1102ほか 2箇所	35	
		横山沢	1177ほか 1箇所	20	
		下押出沢	1043ほか 1箇所	20	
		樋千沢	2279ほか 1箇所	20	
		黒石(御岳)	2447ほか 1箇所	20	
		土浦支線	2738ほか 2箇所	100	
		下黒沢	2323ほか 1箇所	20	
		鞍掛	2608ほか 1箇所	20	
		崩沢支線	2095ほか 1箇所	20	
		井戸沢	2001ほか 2箇所	40	
		助六	2181ほか 1箇所	20	
		土浦	2790ほか 1箇所	20	
		白川付知支線	2519ほか 1箇所	50	
		東股	2091ほか 1箇所	20	
		赤棚支線	2306ほか 1箇所	20	
		クロブチ	2114ほか 1箇所	20	
		大水無	2639ほか 1箇所	20	
		下小谷	2795ほか 1箇所	20	
		上黒沢	2800ほか 1箇所	20	
御岳滝越連絡	2322ほか 2箇所	40			
千沢	2402ほか 2箇所	40			
穴沢	2009ほか 1箇所	20			
樽沢	2454ほか 1箇所	20			

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
その他	改良	鞍馬	2460ほか 1箇所	20	
		立間沢	2398ほか 1箇所	20	
		赤棚	2279ほか 1箇所	25	
		崩沢	2105ほか 4箇所	50	
		水無	2585ほか 1箇所	45	
		大助谷	2203ほか 1箇所	20	
		一ノ瀬	2796ほか 2箇所	35	
		本谷	2709ほか 1箇所	20	
		唐谷	2715ほか 1箇所	20	
		中ノ沢	南木曾 609ほか 4箇所	2,000	
		ムクリ沢	529ほか 2箇所	500	
		額付本谷	525ほか 2箇所	50	
		忠兵衛沢	16ほか 3箇所	100	
		柿其本谷	37ほか 3箇所	100	
		ナメリ沢	42ほか 2箇所	50	
		小吹沢	115ほか 2箇所	50	
		丸山沢	307ほか 2箇所	50	
		赤ナギ沢	363ほか 2箇所	50	
		白口沢	347ほか 2箇所	50	
		南沢	399ほか 2箇所	50	
		西山	1229ほか 3箇所	100	
		樽ヶ沢付知又	1198ほか 3箇所	100	
		ワラビ沢	86ほか 2箇所	50	
		マキガ沢	13ほか 2箇所	50	
		鍋割沢支線	616ほか 3箇所	100	
		塚野	2103ほか 2箇所	50	
		南沢本谷	647ほか 3箇所	100	
		野尻向	1084ほか 3箇所	100	
		北沢	1133ほか 2箇所	50	
	薬師	1001ほか 2箇所	50		
	長谷川	2139ほか 2箇所	50		
	二ノ沢	1013ほか 2箇所	50		
今朝沢	1392ほか 2箇所	50			
富貴畑	591ほか 2箇所	50			
	計		146箇所	5,790	

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
合計	開設		17箇所	28,200	(木曾) 10箇所 16,700m (南木曾) 7箇所 11,500m
	改良		229箇所	8,440	(木曾) 146箇所 3,540m (南木曾) 83箇所 4,900m

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

4 治山に関する事項

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
<p>木曾 川戸沢・灰沢・上赤沢・黒沢・白川（小川）・ねじたる沢・和合沢・板橋沢・棧橋沢・白川（黒沢御岳）・倉本湯川・冷川・本谷沢・末川・畑福沢・砂ヶ瀬川・野上川・正沢川・八沢川・黒石沢・小樽沢・幸沢・黒川・西洞川・黒木ヶ沢・床並沢・押出沢・枯尾沢・笹尾沢・セミ沢・上下ゴッコ沢・ワビ沢・信ノ沢・尾頭沢・池ノ沢・尾骨沢・塩沢・瀬戸川・千沢・鈴ヶ沢・樽ヶ沢・崩沢・うぐい川・小俣川・立間ヶ沢・濁川・下黒沢・割沢・白川（南滝越）・滝越・白谷・ダム上・付知沢・大赤川・水無沢・一ノ瀬・上黒沢・土浦沢・カラ沢・本谷</p> <p>南木曾 柿其川下流、柿其川上流、岩倉沢、南木曾、上山沢、町上、額付、長者畑、鍋割、長通川、阿寺川上流、阿寺川右岸、天王洞、浦川下流</p>	保全施設	溪間工	<p>73 (木曾59) (南木曾14)</p>
<p>木曾 川戸沢・灰沢・じゃ香沢・上赤沢・黒沢・白川（小川）・ねじたる沢・才児赤沢・和合沢・板橋沢・小野川・北俣沢・棧橋沢・倉本湯川・冷川・本谷沢・末川・畑福沢・皆沢・砂ヶ瀬川・野上川・正沢川・小樽沢・幸沢・黒川・西洞川・加代ヶ沢・中ノ沢・奥峰沢・床並沢・押出沢・枯尾沢・笹尾沢・セミ沢・上下ゴッコ沢・ワビ沢・信ノ沢・尾頭沢・池ノ沢・尾骨沢・塩沢・牙ヶ沢・瀬戸川・千沢・鈴ヶ沢・溝口沢・大股沢・樽ヶ沢・崩沢・大鹿・うぐい川・小俣川・立間ヶ沢・濁川・下黒沢・割沢・白川（南滝越）・滝越・白谷・ダム上・付知沢・鞍掛・大赤川・中浦・水無沢・一ノ瀬・小谷・上黒沢・土浦沢・カラ沢・本谷</p>	保全施設	山腹工	<p>86 (木曾72) (南木曾14)</p>

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
南木曾 柿其川下流、柿其川上流、岩倉沢、上山沢、町上、 額付、長者畑、賤母、長通川、阿寺川上流、天王 洞、浦川下流、東川本谷	保 全 施 設	山 腹 工	
南木曾 長者畑	保 全 施 設	そ の 他	1 (南木曾 1)
木曾谷計画区管内の保安林区域内	保 安 林 の 整 備	保 安 林 改 良	1,671.29 (木曾999.25) (南木曾672.04)
合 計	保 全 施 設	溪 間 工	73 (木曾59) (南木曾14)
		山 腹 工	86 (木曾72) (南木曾14)
		そ の 他	1 (南木曾 1)
	保 安 林 の 整 備	保 安 林 改 良	1,671.29 (木曾 999.25) (南木曾 672.04)

- 注：1 保全施設の計画量「箇所」数は、「単位流域」数を表す。
 2 支流域の異なる単位流域があるため単域流域の後に()書きで支流域名を付した。
 3 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

5 保護林の名称及び区域

ア 森林生態系保護地域

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
中央アルプス木曽駒ヶ岳	既設	4,140.20 保存地区 1,812.61 保全利用地区 2,327.59	木曽 (729.36) 358-IIに・ほ・ハ 359-Iろ・は・イ・ロ 359-Iろ・イ 南木曽 (1,083.25) 1412は・に 1418ろ・に・ロ・ハ 木曽 (874.87) 358-IIい・ろ・は・イ・ロ 359-Iい、359-II 南木曽 (1,452.72) 1411ろ・に 1412い・ろ・イ・ロ 1418い・は・へ・イ	日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中央部に位置し、中央アルプスにおける原生的で多様な天然林を有している。自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、新しい時代における森林に関する技術の発展、学術研究等に資するため、この原生的な森林の生態系を保護する。	原則として、人手を加えず自然の推移に委ねた保護管理を行う。 当該保護林に外接する森林においては、当該保護林の急激な環境の変化を避けるため、原則として皆伐等による施業は行わないものとし、複層伐及び択伐を中心とした育成複層林施業又は天然生林施業を行う。
面積計		4,140.20			

イ 生物群集保護林

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曽生物群集	新設	9,008.81 保存地区 2,803.47 木曽谷 : 2,803.47 木曽川 : 463.06 計 3,266.53	木曽 (2023.09) 101~118 125ろ・ほ・イ 126は・ち・イ 2145~2154 2156い・に	天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林は、世界的に希少といわれている。 現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって、遺伝資源及び森林生態系を保存するとともに、人工林から天然林	温帯性針葉樹林への復元を図るため、保護林復元部会を設置し、復元計画を策定した上で適切に保護・管理を行っていく。また、当該保護林の保護・管理及び

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曽生物 群集		<p>保全利用地区 6, 205. 34</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>木曽谷 : 6, 205. 34 木曽川 : 920. 32 計 7, 125. 66</p> </div>	<p>2157~2179 2182~2194、2198 2199い~は、2200い~は 2201、2202、2221い~ に・へ・イ、2222い・ろ・れ 2223り・れ、2224い・た 2225ほ・ち</p> <p>南木曽 (780. 38)</p> <p>1110~1112 1113い~ほ 1114~1123 1133~1143、1162い 1163、1164 1165ろ・と、1166ろ 1167ろ、1168は</p> <p>木曽 (3926. 10)</p> <p>122い・イ、123 124ろ~へ、125い 126い・ろ、127~130 131い~は、132い 155~197 2117~2144、2155 2156ろ・は、2180 2181、2195~2197 2199に~り 2200に・ほ 2203~2220、2221ほ 2222は~た・そ 2223い~ち・ぬ~た・そ~ね 2224ろ~よ・れ 2225い~に・へ・と・り~れ 2226~2246</p>	<p>への誘導を通じて温帯性 針葉樹林の復元を図るた め、木曽地方（長野県内 の木曽谷及び岐阜県内の 裏木曽（加子母裏木曽、 付知裏木曽））の国有林 を生物群集保護林に設定 する。</p>	<p>利用に当たって は、当該保護林を 含む木曽悠久の森 の取扱い等を定め た木曽悠久の森管 理基本計画の考え 方を踏襲する。</p>

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曾生物 群集			南木曾 (2279.24) 1093い・ろ・に～へ 1094、1095 1096ろ～ち、1097い 1098～1100 1101い・ろ・に・ほ・イ 1102い～に・へ・と・ロ 1103ろ～へ 1104～1109、1113へ 1124～1129 1130い・は～ぬ、1131 1132、1144～1161 1162ろ～へ 1165い・は～へ 1166い・は・に 1167い・は～と 1168い・ろ・に～ぬ 1169～1203 1204い・ろ・に～と・ロ 1205い～に		
南木曾岳 生物群集	新設	保存地区 672.87	南木曾 424～435 513ろ、514い・は、515 516い・ろ・へ 517い・は・ほ 518、519い、520い 521、522い・は 523、524い	南木曾岳山頂部周辺は 木曾ヒノキ、コウヤマ キ、クロベ等の天然木が 生育し、林床にはキョウ マルシャクナゲ等が生育 するなど、深層風化花崗 岩からなる急峻な山岳地 形とあいまって木曾谷南 部の典型的な生物群集を 有する森林の保護・管理 を図る。	原則として、人 手を加えず自然の 推移に委ねた保護 管理を行う。ただ し、人工林につい ては、育成複層林 施業等を行うこと が出来るものとし て、将来的には天 然林への移行を図 る。

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等								
御岳生物 群集	新設	保存地区 1,159.29	木曾 832イ・ロ 863イ～ヤ 2330イ 2452イ・ロ 2453イ・チ 2688イ 2697イ 2760イ	御嶽山の山頂周辺は活火山特有の地形、地質であり、これに地域固有の植生等が分布していることから、これらを有する森林の保護・管理を図る。	原則として、人手を加えず自然の推移に委ねた保護管理を行う。 当該保護林に外接する森林においては、当該保護林の急激な環境の変化を避けるため、原則として皆伐等による施業は行わないものとし、複層伐及び択伐を中心とした育成複層林施業又は天然生林施業を行う。								
		<table border="1"> <tr> <td>木曾谷</td> <td>: 1,159.29</td> </tr> <tr> <td>飛驒川</td> <td>: 1,539.99</td> </tr> <tr> <td>宮・庄川</td> <td>: 394.76</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,094.04</td> </tr> </table>		木曾谷	: 1,159.29	飛驒川	: 1,539.99	宮・庄川	: 394.76	計	3,094.04		
木曾谷	: 1,159.29												
飛驒川	: 1,539.99												
宮・庄川	: 394.76												
計	3,094.04												
面積計		10,840.97											

ウ 希少個体群保護林

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
鉢盛山 コメツガ 等	新設	75.07	木曾 1133ち、1136ほ	鉢盛山近辺のコメツガ、トウヒ、ダケカンバ等から構成される天然林の保護・管理を図る。	原則として、人手を加えず自然の推移に委ねた保護管理を行うこととするが、当該個体群の保護・増殖に必要な森林施業は可能とする。
寝覚の床 サワラ	新設	57.25	木曾 21い・ろ、22い・ろ	サワラ、木曾ヒノキ、コメツガ等から構成される天然林の保護・管理を図る。	当該保護林に外

名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
皆 沢 アカマツ 等	新設	9.62	木曾 585い・ろ・に・ほ・へ	形質の良いアカマツ、サワラ、ウラジロモミ等から構成される天然林の保護・管理を図る。	接する森林においては、当該保護林の急激な環境の変化を避けるため、原則として皆伐等による施業は行わないものとし、複層伐及び択伐を中心とした育成複層林施業又は天然生林施業を行う。
新 高 コメツガ 等	新設	51.13	木曾 818い	コメツガ、シラビソ、オオシラビソの成熟相を呈し、チョウセンゴヨウ、クロベ等の混交する天然林の保護・管理を図る。	
瀬 戸 川 ヒノキ等	新設	2.24	木曾 2025は	阿寺山系の木曾ヒノキを主体とし、コウヤマキ、サワラ、広葉樹等から構成される原生林に近い天然林であり、学術的に価値が高いことから、この個体群の保護・管理を図る。	
台 ヶ 峰 サワラ	新設	7.20	木曾 261ろ、ち、り	サワラの占有率が高く、木曾谷でも特に優れた典型的なサワラ天然林となっていることからこの個体群の保護・管理を図る。	
油 木 沢 ヒノキ	新設	48.80	木曾 866い、867い、872い 873い	人為が加わって成林した典型的な木曾ヒノキの個体群の保護・管理を図る。	
賤 母 ヒノキ等	新設	30.29	南木曾 702い、707ろ	木曾ヒノキ、モミ、ツガ、コウヤマキ等の天然林であるが太平洋側の温帯林と暖帯林の移行層として、木曾谷の多くの森林と異なる特異な植生を形成していることから、これらの個体群の保護・管理を図る。	
面積計		281.60			

木曾谷 : 30.29
 木曾川 : 20.68
 計 50.97

6 レクリエーションの森の名称及び区域

(1) 自然休養林

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
木曾御岳	既設	831.92	ゾーン区分別の林小班一覧表のとおり	御嶽山の南斜面の中腹部にあり、春秋の自然探勝、夏の登山、冬のスキーと四季をとおして保健休養資源に恵まれ、利用者が多く保健休養の場として適した地域である。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道 (国・王滝村) ・ スキー場 (王滝村) ・ 園地 (王滝村) ・ 宿泊施設 (王滝村) ・ 駐車場 (王滝村) 		

木曾御岳自然休養林のゾーン区分別の林小班一覧表

ゾーン区分	面積 (ha)	位置 (林小班)	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
野外スポーツゾーン	248.74	木曾 876は・に、877は、879は、880ろ 2444は、2446い～ほ 2447い～た、2448い～か 2449い・ろ・ほ・と～り 2453ろ～へ	天然生 林施業	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキー場 (王滝村) ・ 宿泊施設 (王滝村) 		
		2446い、2447い～ち、2448い～へ、2449こ・ホ、2453ハ・ホ～ト	林地以 外			
風 景 ゾ ー ン	461.16	木曾 2435い、2439ろ、2441ろ・は 2449は	育成複 層林施 業			
		2426い、2427い、2428い・ろ 2429い、2430い・ろ、2435ろ 2436い、2437い、2438い 2439い、2440い、2441い 2444ろ、2445い、2449に	天然生 林施業			
		2426い、2428い、2429い 2430い・ロ	林地以 外			
風致探勝 ゾ ー ン	122.02	木曾 2437ろ、2438ろ・は、2445ろ・は 2453い	天然生 林施業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園地 (王滝村) ・ 宿泊施設 (王滝村) 		
2438い、2445い、2453ロ・ニ・リ・ヌ	林地以 外					

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考
赤 沢	既 設	759.56	ゾーン区分別の林小班一覧表のとおり	日本三大美林の一つ、木曾ヒノキの森林を広く一般にも公開し、森林の持つ美しさを観賞してもらおうとするものである。準平原の緩やかな起伏の台地にそそり立つ木曾ヒノキとその裾をまつわる清流、澄んだ空気、林業関係の展示などの施設とともに野外レクリエーションの場として適している。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道 (国・上松町) ・ 駐車場 (国) ・ 園地 (国・上松町) ・ 宿泊施設 (上松町) ・ 森林鉄道 (上松町) ・ 管理施設 (国・上松町) ・ 食堂、売店 (上松町) 		

赤沢自然休養林のゾーン区分別の林小班一覧表

ゾーン区分	面積 (ha)	位置 (林小班)	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考
自然観察教育ゾーン	349.59	木曾 80い、81い・ろ、82い、83い、84い 86い、87い、89い、90い、91い 92い・は、97い、98い、99い 100い・ろ・は1・は2・は3 119い、120い・ろ、121い	天然生 林施業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園地 (国・上松町) 		
森林スポーツゾーン	43.49	木曾 72ろ、73い・ろ、79い～は	育成複 層林施 業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園地 (国・上松町) ・ 宿泊施設 (上松町) ・ 森林鉄道 (上松町) ・ 管理施設 (国・上松町) 		
		80ろ、82ろ、90は、91ろ	天然生 林施業			
		70い、72い、73い・ろ、79い～こ	林地以 外			

ゾーン区分	面積 (ha)	位置 (林小班)	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
風景ゾーン	273.82	木曾 81は、83ろ、84ろ・に、85ろ・は・ほ 86ろ・に・へ、87ろ、88い 89ろ・に、92ろ、93ろ～に2、94い 95ろ・ほ・へ、96ろ～ほ	育成複 層林施 業			
		81に、84は・ほ、85い・に、86は・ほ・ と、87は、88ろ・は、89は・ほ、90ろ 92に、93い・ほ、95い・は・に、96い 97ろ～に、98ろ・は	天然生 林施業			
風致探勝ゾーン	92.66	木曾 53に、54ほ、55へ、61は・に 62ろ・に、65は、66ろ、67は 68は、69ろ、70ろ、122ろ 131に・ほ、132ろ、133ろ、134は 135へ・ち～ぬ、137ろ・は、138ろ 144に・へ、145と・り・る、146ろ 208ぬ、209に・ほ、210ほ	育成複 層林施 業	・園地 (国)		
		53ほ、54に・へ、55と・り、143に 145ち・ぬ・わ、208い・り・る	天然生 林施業			
		53い、62い・ロ、66い、68い、69い 208い、209い～ハ	林地以 外			

自然休養林面積再掲

名称	既設・ 新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
木 曾 御 岳 赤 沢	既 設 既 設	831.92 759.56						
面 積 計		1,591.48						

(2) 森林スポーツ林

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設の概要	施設 整備	備考
滝 越	既 設	150.32	木曾 2316い・イ 2317い・イ 2319ろ・は 2320ろ・は・ロ 2342ニ、2343イ 2501ろ・に 2552い～は 2555い～は ----- 2501い・は・ほ ----- 2552イ 2555イ・ロ	滝越地区の森林と溪流のおりなす優美な自然景観を生かしながら、野外スポーツに供する適地である。	育成複層林施業 天然生林施業 林地以外	・野営場 (王滝村)		
開 田	既 設	128.72	木曾 801い・へ 802い～は 803い・は・に 807わ～そ・ね・ら・や 808い～ほ・と～か・た・つ ～な、809い～と 810ろ・へ ----- 801ろ 803ろ 808へ・よ・れ・そ 810ち・り ----- 803イ 807イ 808イ 809イ 810ニ	御嶽山の山腹の自然景観に恵まれたなだらかな地形を有し、森林の中での快適なスポーツ活動に適した地域である。また、平成6年にヒューマン・グリーン・プランに指定され、「開田森林スポーツ林」と「開田野外スポーツ地域」と「開田風致探勝林」は一体的に取り扱われている。	育成複層林施業 天然生林施業 林地以外			
面積計		279.04						

(3) 野外スポーツ地域

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設の概要	施設 整備	備考
藪原	既設	83.90	木曾 1217い~と 1218い~に・ち・る ----- ----- 1217イ 1218イ・ロ	民有林部分と一体となったスキー場を昭和48年に設定したものの。緩斜面も要しており積雪量が多く雪質もよいため、初心者から上級者まで様々なコースが楽しめる。冬季を中心とした野外スポーツの場として適している。	育成複層林施業 ----- ----- 林地以外	・スキー場 (木祖村)		
三岳	既設	282.12	木曾 849い、850ぬ 854ろ・に~と・か 857ろ~ほ・ち 858ろ・は・ほ~と ----- 843ほ、850る、853り 854い・は・ぬ~わ・よ 856い~ち 857い・へ・と・り・る~よ 858い・に・り、863ろ ----- 843イ・ロ 849イ~に、850イ 853に、854イ~に 856イ~ホ 857イ~ル	昭和57年設定されたスキー場である。御嶽山中腹に壮大なゲレンデを持つスキー場でコースの頂上付近からは御嶽山、乗鞍岳及び北アルプスが眺望でき、野外スポーツの場として適している。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外	・スキー場 (木曾町) ・歩道 (木曾町) ・園地 (国・木曾町)		
開田	既設	307.67	木曾 810は~ほ・と・ぬ 811い~る 814ろ~ほ、と~わ ----- 806い、810いる 812い~は、813い~に	昭和62年に設定されたスキー場である。御嶽山の東斜面に位置し、自然景観及び周辺のレクリエーション施設と一体となり野外スポーツの場として適している。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業	・スキー場 (木曾町) ・宿泊施設 (木曾町、民間)		

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
開 田			810イ~ハ 811イ~ホ、812イ 813イ、814イ~ホ	また、平成6年にヒューマン・グリーン・プランに指定され、「開田森林スポーツ林」と「開田野外スポーツ地域」と「開田風致探勝林」は一体的に取り扱われている。	林地以外			
面 積 計		673.69						

(4) 風致探勝林

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
城 山	既 設	77.90	木曾 724ろ、725ろ~ほ 726い・に~り ----- 722い、723い 724い、725い 726ろ・は ----- 722イ 724イ 725イ	木曾ヒノキ、サワラを主とする天然林で、木曾町福島市の街地の背景林となっている。近接民有地に観光施設があり、そこから国有地まで結ぶ遊歩道が設置されていることから、地域住民等に一体的に自然探勝の場として利用されている。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外	・ 歩道 (木曾町) ・ 園地 (木曾町) ・ 植物園 (国)		
開 田	既 設	103.86	木曾 814ハ・カ・ヨ、815い~ に、816い・ろ、826い~ は、827い・は ----- 827ろ・に・ほ ----- 815イ	御嶽山の山腹に位置し自然景観に恵まれた地域でスキー場及び民有地の宿泊施設の背景林で、森林内での自然探勝に適している。 また、平成6年にヒューマン・グリーン・プランに指定され、「開田森林スポ	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外			

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設の概要	施設 整備	備考
開 田				「一ツ林」と「開田野外スポーツ地域」と「開田風致探勝林」は一体的に取り扱われている。				
阿 寺	既 設	239.59	南木曾 1069ろ・は、1071ほ 1073と・り、1083へ ち・か・れ、1084ろ 1085ち・ぬ、1086ほ 1090と、1091い 1092に・ほ、1093は・ と、1096い、1097ろ 1101は、1102ほ・ち 1204は、1205ほ 1206ほ、1207と 1208ほ、1232は 1233い・ろ、1234ろ 1235ほ ----- 1069い、1070い 1071ろ、1085り 1205へ、1206へ 1208に、1238へ 1239ろ、1240へ・と 1242い、1243い・ろ 1244い、1245い ----- 1073い、1102い 1204い・ハ	飯盛山と阿寺溪谷入口付近は木曾ヒノキ・サワラ・コウヤマキ・ヒメコマツ・コメツガ等の天然林であり、阿寺川沿いの道路沿線は高齢級のヒノキ人工林で溪流と一体となった景観美をなしており、自然探勝、憩いの場として保健休養の場に適している。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外	・野営場 (大桑村) ・園地 (大桑村) ・歩道 (大桑村) ・案内所 (大桑村) ・管理施設 (大桑村)		
大平峠	既 設	60.48	南木曾 595ろ・に・ほ ----- 594は、595い・は・へ 596い ----- 595い・こ	民有地にある「大平県民の森」に隣接した国有林で、歩道や園地等が整備され一体的に利用されている。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外	・歩道 (長野県) ・あずまや (長野県)		

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設の概要	施設 整備	備考
田立の滝	既 設	91.72	南木曾 2116-IIろ~へ・ち・り 2126-IIい・と~り ----- 2116-IIい・と・ぬ 2117い・ろ、2118ろ 2125ろ、2126-Iい・ろ、 2126-IIろ~ほ ----- 2116-IIイ 2126-Iイ	木曾ヒノキを主とする天然林と、白く光る花崗岩の岩肌を落下する七つの滝からなる景勝地であり、民有地のキャンプ場と合わせ、保健休養の場として適している。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外	・ 歩道 (南木曾町) ・ 休憩所 (南木曾町) ・ 避難小屋 (南木曾町) ・ 駐車場 (南木曾町) ・ 公衆便所 (南木曾町)		
瀬戸川	既 設	51.36	木曾 2025へ 2026ろ 2028ほ・ぬ・る 2029ろ・と 2030に 2033は・ほ 2034と 2040ろ 2055は ----- 2025と・り 2026は・に 2027ろ 2028へ~り 2029へ 2030い・ろ 2031は 2032に 2033に・と~り 2034に・へ 2037ろ 2038に 2039に・ほ 2040に・ほ	王滝川支流の瀬戸川の支流東俣沢から王滝村と上松町の村境の分渡峠に至る沢沿いの歩道周辺には木曾ヒノキの大径材が残存する地域である。地元王滝村のシンボリックな存在であり、分渡峠に至る歩道とともに木曾ヒノキ大径材を見学する利用者が訪れる箇所である。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業			

名称	既設・新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
瀬戸川			2041に 2044に・ほ 2045に 2056へ					
面積計		624.91						

<参考> レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法等

対象団地	面積 (ha)	位置 (林小班)	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
開 田	492.69	木曾 801は～ほ、803ほ・へ 804い～は、805ろ～へ 807い～は・ほ～と・り～る・つ・な・む・ う・ま～こ 814い、816は～わ 825ろ～に、828い・は・ち・り 829ほ、839ほ 843ろ～に・へ・と・ぬ・る	育成複 層林施 業			
		805い、806ろ・は、807に・ち・の・ お・く、817い・ろ、825い 828ろ・に・ほ・と・ぬ・る・わ 839へ・と、843い・ち・り、849ろ 854ち・り、857り、858へ	天然生 林施業			
		804い、816い、825い、843ハ 858い・ロ	林地以 外			

7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域等
該当無し

8 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

区 分	名 称	設定年	面 積 (ha)	位 置	備 考
施業指標林	ポドソル地帯におけるヒノキ天然更新	S 59年度	2.76	木曾 2201ろ	天然林施業体系の確立
試 験 地	三 浦 実 験 林	S 41年度	418.76	木曾2626~2637 2639~2641	ポドソル地帯におけるヒノキ天然林の更新施業体系の確立
	上松ヒノキ天然林の漸伐施業試験	S 47年度	7.59	木曾 157い1~い3	漸伐施業におけるポドソル地帯の天然性稚幼樹の発芽試験
	赤沢ヒノキ施業試験	S 58年度	11.84	木曾 100は1~は3	後継ヒノキ稚樹の育成
	助 六 実 験 林	H 1年度	89.18	木曾 2156い・に 2157い~へ 2179い~は	ポドソル地帯におけるヒノキ天然林の更新施業体系の確立
	カンバ天然更新試験	H 4年度	1.45	木曾 2670に	カンバ天然更新試験
	カラマツ産地試験新高試験	S 33年度	2.12	木曾 804ろ	(森林総研) 異郷土樹種の導入
	成長予測の固定標準地	S 25年度	0.32	木曾 2019は	(森林総研) 林分成長推定予測
	成長予測の固定標準地	S 31年度	5.00	木曾 101ろ	(森林総研) 林分成長推定予測
	王滝ヒノキA種収穫試験	S 29年度	0.69	木曾 2302は	(森林総研) ヒノキ人工林の構造
	蘭ヒノキA種収穫試験	S 29年度	0.83	南木曾 611ろ	(森林総研) ヒノキ人工林の構造
	赤沢ヒノキ人工林収穫試験	S 38年度	1.20	木曾 78わ	(森林総研) ヒノキ人工林の構造と生長
王滝天然更新試験	S 44年度	3.96	木曾 2438は 2445は 2446は	(森林総研) ブナ及び亜高山帯の更新 保育施業の体系化	
次代検定林	次代関長 2号一般	S 39年度	0.84	木曾 95へ	ヒノキ
	関長18号一般	S 49年度	1.23	木曾 801は・に・ほ	カラマツ
	関長16号一般	S 49年度	2.03	南木曾 624に	ヒノキ
	関長20号一般	S 50年度	1.32	南木曾1233ほ~と	ヒノキ

区 分	名 称	設定年	面 積 (ha)	位 置	備 考
次代検定林	関長40号一般	H 1年度	0.26	南木曾 591は・ といる	ヒノキ
	関長47号一般	H 10年度	1.72	木曾 197ほ	ヒノキ
	関長36号一般	H 17年度	0.64	南木曾 1232ろ	スギ
	関長49号一般	H 22年度	0.31	南木曾 104へ	ヒノキ
	関長50号一般	H 22年度	0.37	南木曾 104ほ	スギ
試植検定林	試植関長ソ号	S 44年度	0.40	木曾 2392へ	ヒノキ
遺 伝 子 検 定 林	長遺 11号	S 44年度	2.45	木曾 2392ほ	ヒノキ
	長遺 6号	S 44年度	3.25	木曾 2516ぬ	ヒノキ
精 英 樹 保 護 林	上松ヒノキ 5号	S 32年度	0.10	木曾 40ほ	
	上松ヒノキ 3号	S 32年度	0.10	木曾 40へ	
	上松ヒノキ 1号	S 32年度	0.10	木曾 74ろ	
	上松ヒノキ 2号	S 32年度	0.10	木曾 136ほ	
	上松ヒノキ 4号	S 32年度	0.10	木曾 140は	
	上松ヒノキ 7号	S 32年度	0.10	木曾 302に	
	上松ヒノキ 6号	S 32年度	0.10	木曾 306ろ	
	上松ヒノキ 9号	S 32年度	0.10	木曾 312と	
	上松ヒノキ10号	S 32年度	0.10	木曾 316ろ	
	福島アカマツ 104,105号	S 32年度	0.17	木曾 585に	
	福島アカマツ 103,108号	S 32年度	0.25	木曾 585ほ	
	福島アカマツ 101号	S 32年度	0.10	木曾 585へ	
	福島アカマツ 106号	S 32年度	0.09	木曾 841と	
	福島アカマツ 107号	S 32年度	0.09	木曾 841ぬ	
	福島カラマツ 101・102号	S 32年度	0.20	木曾 803ほ	
	福島カラマツ 103号	S 32年度	0.10	木曾 803へ	
	王滝サワラ 101号	S 33年度	0.10	木曾 2019に	
	王滝ヒノキ 103号	S 33年度	0.30	木曾 2032は	
	王滝ヒノキ 102号	S 33年度	0.17	木曾 2033に	
	王滝ヒノキ 101号	S 33年度	0.10	木曾 2034に	
	王滝サワラ 102号	S 33年度	0.10	木曾 2039に	
	野尻ヒノキ 1号	S 32年度	0.10	南木曾 1037ろ	
	野尻ヒノキ 3号	S 32年度	0.10	南木曾 1086ろ	
	野尻ヒノキ 5号	S 32年度	0.10	南木曾 1085ろ	
	野尻ヒノキ 6号	S 32年度	0.10	南木曾 1085は	
	野尻ヒノキ 7号	S 32年度	0.10	南木曾 1085に	
妻籠ヒノキ 5号	S 34年度	0.10	南木曾 612ろ		
妻籠ヒノキ 2号	S 34年度	0.07	南木曾 634は		

区 分	名 称	設定年	面 積 (ha)	位 置	備 考
特別母樹林	特 4 5 - 2	S 45年度	9.84	木曾 866い	ヒノキ
		S 45年度	16.45	木曾 867い	ヒノキ
		S 45年度	10.11	木曾 872い	ヒノキ
		S 45年度	11.89	木曾 873い	ヒノキ
展 示 林	小川入ヒノキ	S 52年度	1.00	木曾 2930へ・ち	ヒノキ
	ヒ ノ キ	S 56年度	0.20	南木曾 1083へ	人工林ヒノキ優良林分
	ヒ ノ キ	H 4年度	0.84	南木曾 1253は	人工林ヒノキ高齢級優良林分
森林施業 モデル林	育成複層林施業	H 11年度	2.84	木曾 56ほ	水源涵養タイプ
	育成単層林施業	H 10年度	12.80	南木曾 9い	水源涵養タイプ
	育成単層林施業	H 10年度	7.33	南木曾 591に外	山地災害防止タイプ
	育成複層林施業	H 10年度	3.74	南木曾 393い	水源涵養タイプ
	育成複層林施業	H 11年度	5.42	木曾 1079は	水源涵養タイプ
	育成複層林施業(荒廃地の復旧)	H 11年度	19.50	木曾 348イ外	水源涵養タイプ
	育成複層林施業	H 11年度	9.46	南木曾 1207に	水源涵養タイプ

(2) フィールドの提供

ア 木の文化を支える森

名 称	面積(ha)	位 置	設 定 の 目 的 等
ひわだ 檜皮の森 (平成14年度設定)	71.36	南木曾 702ろ 703い 706は 707い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協定相手方：「公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会」 ・ 協定期間：平成33年度末まで (平成28年度末更新) ・ 目 的：歴史的建造物の屋根葺き材料としてのひわだ檜皮を供給するための森林整備・保全活動を行う。
南木曾伝統工芸の森 (平成18年度設定)	3.16	南木曾 609い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協定相手方：「南木曾伝統工芸の森育成協議会」 ・ 協定期間：平成33年度末まで (平成28年度末更新) ・ 目 的：南木曾町の伝統工芸品のロクロ細工等に充当する広葉樹を育成するための森林整備・保全活動を行う。

イ 多様な活動の森

名 称	面積(ha)	位 置	設 定 の 目 的 等
城山史跡の森 (平成16年度設定)	77.90	木曾 722~726	<ul style="list-style-type: none"> ・協定相手方：「城山史跡の森倶楽部」 ・協定期間：平成33年度末まで (平成28年度末更新) ・目 的：自然再生、森林環境教育等に取り組むNPO・ボランティア団体等の支援及びその活動拠点として整備するため。

(3) 森林共同施業団地
(木曾森林管理署)

名 称	対 象 地 (林 班)		面 積 (ha)	連携した施業 の内容	備 考
上松町団地	民	1~63	5,267	路網の整備・施業の連携、中間土場の整備、民国連携した林産物の安定供給システム等。	
	国	1~225 238~256 301~360	10,822		
計			16,089		
木曾町団地	民	1~175 1001~1043 3001~3157	21,937	路網の整備・施業の連携、中間土場の整備、民国連携した林産物の安定供給システム等。	
	国	257~273 601~625 630~673 704~715 718~760 833~844 846~892	7,661		
計			29,598		

名 称	対 象 地 (林 班)		面 積 (ha)	連携した施業 の内容	備 考
木曾町開田団地	民	2001～2110	8,302	路網の整備・施業の連携、中間土場の整備、民国連携した林産物の安定供給システム等。	
	国	501～586 801～832	5,274		
計			13,576		
木 祖 村 団 地	民	1～91	4,974	路網の整備・施業の連携、中間土場の整備、民国連携した林産物の安定供給システム等。	
	国	1001～1074 1077～1214 1217～1221	7,893		
計			12,867		
王 滝 村 団 地	民	1～92	3,865	路網の整備・施業の連携、中間土場の整備、民国連携した林産物の安定供給システム等。	
	国	2001～2293 2301～2460 2501～2590 2592～2654 2656～2727 2729～2788 2790～2823 2926～2937	26,009		
計			29,874		

(南木曾支署)

名 称	対 象 地 (林 班)		面 積 (ha)	連携した施業 の内容	備 考
南木曾町団地	民	1~122	6,037	民国連携した森林・路 網整備と林産物の安定供 給システム等の推進。	
	国	1~119 301~464 501~693 702~709 2101~2147 (2~7)	14,197 (111)		
計			20,345		
大桑村団地	民	1~66	4,891	民国連携した森林・路 網整備と林産物の安定供 給システム等の推進。	
	国	1001~1247 1249~1256 1301~1433	17,586		
計			22,477		

(注) 対象地及び面積の()書きは官行造林地で外書き